

## Blackboard を使って

人間発達科学部人間環境システム学科 人間情報コミュニケーションコース  
教授 鼓 みどり

学習支援システム Blackboard を使い始めて 2 年目である。ここで導入の経緯と使用方法を紹介し、このツールをより広く知ってもらうきっかけを提供したい。

### 配付資料の電子化

筆者の授業は、教科書よりもプリントを使うことが多い。いつ頃からか、配付資料が教室に放置されているのが目につくようになった。作成に要する労力や、印刷の手間、そして用紙が無駄になってしまうことが非常に腹立たしく、解決方法はないものかと悩んでいた。また教育学部情報教育課程に所属していたので、ホームページを作るよう勧められた。たまたま読んだセンター公報のホームページ紹介に、講義資料をすべて web にのせているとあり、自分も講義資料中心のホームページを作ろうと考え、ようやく 2004 年 4 月に開設した。

資料の電子化は、端末室を使う「視覚メディア史論」と「マルチメディア表現論 I」で行った。受講生は端末でサイトを見ながら講義を聴き、課題を行う。ただし課題の小レポートは、印刷ないしは手書きで提出させていた。ワープロ書類の印刷はジョブが集中するために時間がかかり、失敗も多く悩みの種であった。2002 年頃から e-ラーニングと言う言葉を耳にするようになり、映像機器の展示会場でいくつかサンプルを見た。

### Blackboard 導入

2005 年 3 月に基盤センターで行われた Blackboard 講習会に参加した。実際にサンプルを操作してみたが、最初は十分にのみこめなかった。このアプリケーションがよく分からないながらも導入を決めた理由はいくつかある。以前にも紹介したように、「マルチメディア表現論 I」は学生との双方向で進める授業なので、掲

示板によるやりとりが有効だと考えた（「メディアを批評するスキル 『マルチメディア表現論 I』から」、『富山大学総合情報処理センター広報』第 7 号、2003 年 3 月、49～52 頁）。これまで印刷した小レポートをダイジェストして記録をとっていたが、テキストがデータで返送されれば処理がしやすくなる。ただ自分のサイトで掲示板を設けることには煩わしさを感じて積極的になれなかった。掲示板設置の方法に不案内なことと、杞憂に過ぎないかもしれないが「荒らし」にあいたくないと思った。Blackboard は学内限定の登録制なので安心して使うことができるし、掲示板の設定も用意されている。自分に必要な機能だけを設定したコンテンツをす作することに決めて、利用申請をした。

2005 年度から Blackboard を使い始めた。開講科目は「表現論 I」と「視覚メディア史」の 2 つで、毎回コース文書と掲示板による課題を設定する。この 2 つを例に、筆者が Blackboard をどう使っているかを紹介する。

### 履修者の登録

初回の授業で、受講者に登録してもらおう。2004 年度から各学生に Blackboard の ID とパスワードが与えられているので、簡単にログインできるはずである。コース登録のコード設定で半角にしたが全角になっていたことがあった。これまでスムーズに登録できたが、今年度後期、1 年生対象の授業ではどうしてもログインできない学生が目立ち、数名は受講しなかった。ID とパスワードを忘れ、学内メールも使っていないのだろうか。基盤センターに行くよう指示したが、その後は分からない。Blackboard を使った科目が増えれば、こうした事態は回避できるのだろう。教員は認証の管理を担っているわけではないが、適切な対応を心がけたい。

## コンテンツが完成している授業

「視覚メディア史」は配付資料をサイトにアップしていたので、「コース文書」に web ページのリンクを貼るだけで完了する。ページは文字主体だが表を使うので、ワープロのテキストをそのまま貼り付けるよりも HTML 形式の方が見やすくなる。グラフィックを含む場合、そのリンクも貼らなければ表示されない。毎時間の小さな課題は、必ずしも掲示板を使用しない。しかし期末レポートを提出するドロップボックスは、大変便利である。以前はメールによる提出だったので、通常業務のメールと混ざり、処理が大変であった。ただし不具合があるかどうか確認のため、小課題をドロップボックスに送らせなければならぬ。学生からは送信結果が見られないので、コース連絡で未提出者のアナウンスを行う。成績入力直前に気付いてレポートを送り、辛くも間に合ったケースが実際にあった。登録者が必ず提出できるよう、管理者として注意すべき点を知りたい。

当初、講義で使う PowerPoint も載せたいと思ったが、画像が多いためアップできなかった。使い始めてみると、プレゼンテーションは教師の側で管理した方が学生は講義に集中するので、このままでよいと考えている。

## コンテンツを作っていく授業と掲示板

「マルチメディア表現論Ⅰ」は、毎時間の課題を掲示板で提出させ、教員コメントを返信する。次回前半はフィードバックなので、web にダイジェストを載せる。大まかなスケジュールは決まっているが、「コース文書」は毎回更新される。掲示板の設定は、匿名禁止でファイル添付無し、スレッドも立てさせない。学生たちは気軽に自身のコメントを送信してくる。ワープロ文書よりも分量が多くなるのは、レポートよりもメールやブログに近い感覚なのだろう。論述よりおしゃべりに近いので、長いからといって充実しているとは限らない。

この授業では中間と最終の課題発表を課している。中間ではプレゼンテーション、最終は web サイト作成である。従来は口頭で質問をうながしたが、はかばかしい反応はなかった。しかし掲示板で自由にスレッドを立てさせると、発表者は皆に意見を求め、ほぼ全員

がレスを返した。全般に好意的な書き込みが多く、儀礼的な感じもする。しかし優れているものには高い評価が、曖昧なものには突っ込みが返される。教室にキーを叩く音が充満し、その速度には圧倒される。コミュニケーションのあり方が変化していると実感させられた。余談だが FD アンケートを web 化すれば、自由記述をたくさん書くのではないかと思う。

掲示板に記された内容を整理するために、Excel で表を作っている。授業準備は表作成から始まり、web テキスト、web ページを作って「コース文書」にする。2006 年度は 26 名の受講者がいたので、この作業がかなり大変だった。現在、人間発達科学部 1 年の「メディアコミュニケーション概論」でも Blackboard を使用している。1 年生は入力になれていないのか、書き込みは少ない。自分でコメントを書かずにサイトから記事をコピーしたものも見受けられたが、やがて姿を消した。

以上簡単であるが、筆者が Blackboard をどう使っているかを紹介した。毎時間の課題は、感覚や印象を切り取る掲示板の文体で迅速に書き留められる。掲示板は全員の発言を時系列で保存しているので、後から振り返る材料にはなるかもしれない。しかし最終課題にはワープロ文書やプレゼンテーション、ウェブサイトなど、思考を練って組み立てるタスクを課すことが必要になる。

現在は小学生がサイトを使って調べ学習をする。大学生はサイトで集めたデータを、自分の頭を通して整理し、自身のコメントを加えて明確に呈示するスキルが求められている。学生にとって Blackboard は講義資料を提供し、時間ごとの自分の思考を記録してくれる便利なツールである。最近、掲示板のレイアウトが変わり、自分の返した返信は開封済で表示されるようになった。次年度は教養科目を担当するので、資料だけを Blackboard にアップしようかと検討中である。来年度以降も、より進んだ使い方ができるよう、心がけていきたい。